

【事業実績】

本事業は、秋田県立近代美術館を中核に様々な主体が連携・協働する3年間の事業である。年齢や障害の有無にかかわらず美術を通じて人々が出会い、ともに学び合える場を創造することで「障害者の生涯学習」の促進、地域のつながりづくり、地域活力の向上などに寄与することを目的としている。

1 しかける～「みんなのキンビ」ネットワーク構築事業

(1) 「みんなのキンビ研究会」の実施

シンクタンク機能を有する「みんなのキンビ研究会」を3回実施した。秋田県の抱える課題を含め、美術館を取り巻く実情について、アートや福祉、教育、産業技術など、様々な分野の方と共有し、今後の美術館の在り方やプロジェクトが向き合うべき課題について検討した。



藤氏の講演



参加者同士の協議

【第1回みんなのキンビ研究会】

日時:令和5年11月11日(土)14:30～16:00

講師:NPO 法人アーツセンターあきた理事長

秋田公立美術大学教授 藤 浩志氏

テーマ:「みんなの美術館とは

今を生きるために美術館はどうあるのか」



展示室内での研究会

【第2回みんなのキンビ研究会】

日時:令和6年1月6日(土)13:30～15:00

講師:NPO 法人アートルインくちのあかり代表理事

秋田公立美術大学教授 安藤郁子氏

テーマ:「美術館だからできること

アートを介した対話による出会いの場をつくるということ」



【第3回みんなのキンビ研究会】

日時:令和6年2月25日(土)

13:30～14:30 認知症当事者との絵画鑑賞プログラム

14:45～15:30 講演

講師:一般社団法人アーツアライブ代表 林容子氏

テーマ:「アート×美術館×認知症:アートルリップの概要と効果」

(2) 「キンビコミュニケーター」の養成

障害のある方の美術館へのアクセシビリティ向上をテーマに、養成講座を4回実施した。NPO 法人エイブル・アート・ジャパン「みんなでミュージアム」柴崎由美子氏、高橋梨佳氏、NPO 法人アートルインくちのあかり代表理事 安藤郁子氏、秋田県視覚障害者福祉協会 高橋信夫氏、秋田県難聴者・中途失聴者協会 会長 永井慎吾氏を講師として招聘し、当館におけるバリア解消にむけた検討と、視覚や聴覚に障害のある方も楽しむことができるワークショップを企画し、実施した。



バリアについての講義



多様な人が楽しめるワークショップの企画



キンビコミュニケーターが企画し、ファシリテーションしたワークショップ

【第1回養成講座】 9月23日(土) 10:00～16:00 障害の特性とバリアの理解

【第2回養成講座】 10月21日(土) 10:00～12:00 ワorkshopの企画・検討(オンライン指導)

【第3回養成講座】 11月11日(土) 10:00～12:00 ワorkshopのリハーサル

【第4回養成講座】 12月9日(土) 13:30～15:30 ワorkshopの実践

ワークショップテーマ:『みる』『きく』『さわる』一緒に楽しむ鑑賞会

内容:視覚に障害のある方と一緒に鑑賞するグループ、聴覚に障害のある方と一緒に鑑賞するグループに分かれた鑑賞活動。

<参加者の声>

・視覚障害も聴覚障害も生まれつきの人や後から障害をもつ人もいることが分かった。私自身、障害に対する知識や理解が足りていない中、今回の講座はとてもよい機会になった。これからの人生、障害者を含めいろいろな人と関わっていく自分を想像しながら考えるようになった。

・障害について、社会の側に問題があるという思考が変わりました。

・障害に対しての見方や考え方が変わったのと同時に、ある物や事に対しての見方も変わった。異なる視点から見て考える事も必要だという重要な事を学んだ。いろいろな方と交流できて楽しかった。

2 うごかす～地域との協働アートプロジェクト「みんなのキンビ展」

(1) 特別展「からだじゅうであじわう 大根ビネーション展」の開催

「みんなのキンビ」プロジェクトの成果を展示する展覧会「みんなのキンビ展」、1年目の本年度は、テーマを「からだじゅうであじわう」とし、特別展「からだじゅうであじわう 大根ビネーション展」という展覧会名のもと、「みる」ことにとどまらず、「さわる」、「きく」等、様々な感覚であじわえる展示やワークショップを行った。全国で活躍する作家や障害のある方、県内有数のデザイン会社、映像制作会社、高等学校や特別支援学校の生徒など、地域の多様な人々との協働により実現している。

本展は、「ふるさと秋田」や地域や人とのつながり、その背景にある「根っこ(ルーツ)」について多様な視点から見つめ直し、「私たちの根っこをもっと大きく、さらに太く育む」という趣旨から、「大きな根っこ」を象徴する「大根」を表現テーマに設定した。大胆で分かりやすく、かつ身近な切り口により、年齢や立場を超え、たくさんの方と一緒に作り上げることができ、展覧会名にもあるとおりが結びつく(「コンビネーション | Combination」)空間となった。展覧会関連イベントとしてワークショップを8回実施しており、多彩な内容から、幅広い年代層、障害のある方の参加をいただき、交流の場としても意義があった。

【会期】11月11日(土)～令和6年1月28日(日)【会場】秋田県立近代美術館 5階展示室



オープニングイベントでは地域の小学生が育てた大根を主催者と一緒に抜くイベントを行った



絵画作家による滞在制作



共同制作のワークショップも実施



秋田県立栗田支援学校と秋田公立美術大学附属高等学院両校の生徒が共同制作した作品の展示と、交流の様子を映像で放映



「不忍池図」(レプリカ)と一緒に鑑賞支援ツール「さわってみる絵」の展示



視覚に障害のある人と一緒に鑑賞を楽しむワークショップ

<展覧会来館者の声>

- ・ADHD 当事者です。人気のない時をねらってきました。一人で来るのは勇気がいりましたが、とても感動しました。障害を少しでも理解してもらえた気がしてうれしかったです。
- ・半券で期間内はいつ見ても OK というのがとてもありがたい。体力がないので心が動きまくる展示は全部見て回るのがしんどかった。ありがとうございます。
- ・耳の聞こえない人への対応もあるといい。おそらく「見ればわかる」というもの以上が展示にあると思う。
- ・秋田県では珍しい企画展と思った。すばらしい。古き良き美術館という枠を取り払って視覚でなく触覚でも楽しめるものがあるのは良いと感じた。



身体表現のワークショップ



「雪にお絵描き」ワークショップ

(2) 所蔵作品の新しい鑑賞方法を提案するツール「さわってみる絵」の作成

障害者の美術館へのアクセシビリティの向上に向けた取組の一つとして、当館所蔵の「不忍池図」を題材とした「さわってみる絵」を、視覚障害当事者の意見をフィードバックさせながら検討を重ね秋田県産業技術センターと協働で作成した。



視覚に障害のある方との検討会



視覚障害当事者の声をフィードバックし、修正を重ねた

<作成した秋田県産業技術センター研究員の声> (抜粋)

この鑑賞支援ツールは見えないことは何かを考え、風景を手で感じられるよう触感を分けるなど工夫をこらしていますが、目を閉じて触るだけではただの凹凸のある板です。ツールに触れている人が絵画を見て人と何が描いてあるか言葉を交わすことで、相互に解像度を持った世界を「見る」ことができます。このツールを触媒に新たな世界を見出していただければ幸いです。

3 のこす～記録映像作品の制作

事業実施の様子を写真、映像等で記録した他、実施報告書を作成し、関係機関へ送付した。

4 ふりかえる～評価とフィードバック

発展的で継続的な協働を目指し、「みんなのキンビ」実行委員会において、プロジェクトの具体的方策についての共有及び評価を行った。